

初めまして、駆逐艦雪月です！

七海 碧月

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

なんかよくわからない感じで転生した雪月さんが艦これの世界でいろいろやるそうです。

不定期更新です。

なんかゴチャゴチャしてますが気にしたら負けと思って下さい…

(汗)

感想や評価があったら嬉しいなあ・・・(／ω＼) チラッ

目次

プロローグ／出会い

どうもー、こんにちは。

僕は雪村月兔（ゆきむらつきと）って言います。

えっと、どうしてこんなモノローグをしているかって言うと…

なんか知らない所で寝そべっている状態から目を覚ましたからなんだよね。

『知らない天井だ…』なんて言うことになるとは思ってもいなかったよ…。

それはともかく、何でこんなところで寝ていたかって事なんだよね…

自分の記憶では、何時ものようにF G Oだのバンドリとか艦これの話をしながら歩いてたんだよ。

そしたら急に目の前が真っ暗になってさ。

拉致されたのかな？

それだと変な部屋に寝かされていたのも説明がつくのだけれど…

特に裕福だったとかは無いだよね。

だからこの線は無し。

となると、他になにかあるかな…

チーン

…誰ですかね？電子レンジ使ってたの。

何か部屋の外が騒がしくなってきたね。

因みにこの部屋。ドアも有ったけどカギが掛かって開かなかつた。

もしかしてワンチャンドア開く？

ギィィ…

やったね。

これでこの狭い部屋からおさらだばー

「あーどうやら駆逐艦の子のようなんですー！」
うえ？

この何処かで聞いたような「なのです」は…

「私は暁型四番艦 電なのです!」

「そして、私はこの『鎮守府』の提督。岸波白野よ。これからよろしくね!」

……正直頭が痛くなってくる。

まずは電。

なぜ艦娘がここにいるんだろうか?

そしてはくのんが言った鎮守府という言葉。

間違いなく艦これである。

だがしかし、それだと不思議な事が出てくる。

まず、岸波白野という名前。

岸波白野は、F a t e / E x t l a シリーズの主人公である。

それが、艦これのキャラクターである電と一緒にいる?

ドツキリだったらこんな事は起こさないだろう。

そして、自分に起きている事である。

いつの間に自分は電と同じくらいの背になったのだろうか?

何で見覚えのある制服(女子用)を着ているのだろうか?

ついでにメガネも掛けてないし髪も肩までは伸ばしていないし、

白っぽい色はしていない。

ついでに胸も無いよね(因みに現在はまあまあある位)

つまり、だ

僕、転生してる?

いや、夢ってオチも考えたんだけれど、

さすがに夢にしてはリアルなんだよねえ。

「あれ…?聞こえてるー?」

おっとつと、少しボーツとし過ぎていたみたいだね…

「えっと…初めまして?」

「あっ、はい」

うーん、こういう場合どうしたらいいんだろうか?

艦名なんて無いしなあ…

えーい、もうなんか適当に艦名作っちゃえ!

あ、服が睦月型っぽいのでその辺を考えてっと

「それじゃあ、自己紹介してもらいましょうか。」

「はい!」

初めまして!睦月型の雪月(ゆづき)です。

これからよろしくお願いしますね、提督さん!」

こうして、新しい『わたし』の生活がはじまった… よね?